

E-4 アラビア語チュニス方言の「情報的に余剰な与格」

熊切 拓

cyberbbn@gmail.com

キーワード: 現代アラビア語方言 記述言語学 意味論 与格 心性与格

要旨

本発表は、アラビア語チュニス方言における与格のうち、文全体に関わり、特定の意味を付与する与格を取り上げる。この与格が、文中で示されている情報か、文脈上明らかな情報について言及している点から「情報的に余剰な与格」とみなし、この情報的な余剰性がこの与格の意味や特徴に関わっていることを指摘する。また、情報的な余剰性は、この言語全体の与格の分類においても重要な役割を果たしていることを示し、次の5種の与格分類を提案する。情報的に余剰ではない通常の与格（授与動詞の与格、授与動詞に似た動詞の与格、受益の与格）、情報的に余剰な与格（事態受容の与格、事態提示の与格）。

1. 導入

1.1. 本発表の意義

与格は、動詞の項として動作や移動の着点を表すいっぽう、動詞との関連のみでは捉えきれない用法もみられ、さまざまな言語において記述的、類型論的研究が行われてきた。

これらの諸研究を踏まえ、アラビア語方言学においても、その与格について近年大きな関心が向けられている。

本発表は、アラビア語チュニス方言の与格についての資料提示と分析を通じて、アラビア語方言を含めた通言語的な与格研究に貢献することを目的としている。

1.2. 与格に関する先行研究

与格研究においては、与格は「動詞の選択する項である与格」と、そうでない「動詞の選択する項ではない与格」とに分けられる。後者は、Extra-thematic な与格（例えば Shibatani 1994）、心性与格（例えば Leclère 1976）、文与格（例えば Draye 1996）とも呼ばれる。呼称は異なるものの、前者が動詞と結びつき、文の述べる命題を構成する与格であるのに対して、後者は文全体にかかり、文にある種の情意を付加する与格である点では共通している。

チュニス方言の与格もまた、この2種の与格に区別できる。次に挙げる(1)は、後者の与格の例である。

- (1) w-fakku:**-li:** flu:s:**-i:**
そして-奪う PERF.3PL-DAT.1SG お金-GEN.1SG
「そして彼らは私のお金を奪いました」 [I-166]

ここに現れる1人称単数の与格人称接尾辞 (DAT.) **-li:** は、「お金」の所有者であるが、その所有者であることは「お金」に付された1人称単数の属格人称接尾辞 (GEN.) によっても示されており、その意味では余剰な情報を表している。本発表では、こうした「言う必要のないことをあえて言う」与格を「情報的に余剰な与格」と呼び、この情報的な余剰性がこの言語の与格の意味、統語的特徴、与格全体の分類に関与し

ていることを示す。

1.3. アラビア語チュニス方言の概要と資料

アラビア語チュニス方言（以下チュニス方言）は、アラビア語（アフロアジア語族のセム語派）の現代アラビア語諸方言、マグレブ方言のひとつであり、チュニジア共和国の首都チュニスを中心に広く用いられている。

29種の子音（IPAに準ずる。/b, m, f, θ, ð, ð̣, t, ṭ, d, n, s, ṣ, z, r, ṛ, l, ḷ, ʃ, ʒ, k, g, x, ɣ, q, h, ʕ, h, w, j/）と、長短合わせて6種の母音（/i, a, u, i:, a:, u:/）を持つ。

名詞のクラスは男性（M）・女性（F）に分かれ、単数（SG）と複数（PL）の区別がある。動詞は未完了形（IMPF）と完了形（PERF）と2つの活用の系列があり、人称・数（単数・複数）・性（ただし3人称単数のみ）によって活用する。なお、動詞形をあげる場合は、3人称単数男性完了形によって示す。

本発表のグロスで用いる略号は次の通りである。1, 2, 3: 1人称・2人称・3人称、ACC: 対格人称接尾辞、DAT: 与格人称接尾辞、DEF: 定冠詞、F: 女性、GEN: 属格人称接尾辞、IMPF: 未完了形、M: 男性、PERF: 完了形、PL: 複数、SG: 単数、-: 形態素境界。

本発表の資料としては、発表者が聞き取り調査によって得たものに加えて、チュニス方言で書かれた『アル・アルウィー物語集』（Al-ʕArwi:, ʕAbd-al-ʕazi:z (1989) hika:ja:t al-ʕArwi: Vol. I-IV. 2nd ed. Tunis: Al-Da:r Al-Tu:nisi:ja li-l-Naʕr）に関する調査から得たものも用いた。後者からの引用文については訳文末の [] 内にローマ数字で巻数、アラビア数字でページ番号を記すことで、引用箇所を示した。調査にあたり協力してくださった Farouk Herzi 氏と Khadija Chaieb 氏に感謝申し上げます。なお、本発表は科学研究費助成金（19K13183）による成果を含む。

1.4. チュニス方言の与格についての先行研究

チュニス方言の与格は後述するように、前置詞 l- 《～に》との結合によって形成されるが、この前置詞自体の記述は先行研究に見られるものの（Singer 1984: 625）、これを与格として捉えた上で包括的に論じた研究はまだない。

いっぽう、他の方言では、シリア方言の「同一指示の与格（the coreferential dative）」（Al-Zahre and Boneh 2010）と、マルタ語の与格（Camilleri and Sadler 2012）に関する研究がある。シリア方言と同様な「同一指示の与格」はチュニス方言には存在しない。マルタ語は、チュニス方言と近接している方言であるが、与格の用法には違いも見られる。

2. チュニス方言の与格の概観

2.1. 形態

チュニス方言の与格は、前置詞 l- 《～に》に名詞句もしくは属格人称接尾辞が後続することで形成される。本発表では前者を与格名詞句、後者を与格人称接尾辞と呼ぶことにする。与格人称接尾辞は、動詞句および分詞句に接尾される。与格人称接尾辞の形式を次に、単数（1人称、2人称、3人称男性・女性）、複数（1人称、2人称、3人称）の順に記す。-li:, -lik, -lu:, -(i)lha:, -(i)lha:, -(i)lkum, -(i)lhum。

なお、前置詞 l- と属格人称接尾辞との結合には次の長形もある。li:-ya:, li:-k, li:-h, li:-ha:, li:-na:, li:-kum, li:-hum。これは動詞に接尾されることはないため、本発表での議論からは除外する。

2.2. 与格用法の概観

まず、情報の余剰性に関わらない通常の与格の用法を概観する。この用法は、授与動詞の与格、授与動詞に似た動詞の与格、受益を表す与格の3つに分けることができる。

まず授与動詞の与格についてみる。ここでいう授与動詞とは、ʕfa: 《与える》のみであり、この動詞においては与格は、モノが与えられる人を表す。次の(2a)では、与格名詞句が鍵を与えられる人となっている。(2b)は「鍵(男性名詞)」が対格人称接尾辞として動詞に付着している。一方、与格名詞句が代名詞化されると、動詞に接尾される人称接尾辞は与格ではなく、(2c)のように対格となる。しかし、(2d)のように目的語名詞句とともに代名詞化されると、与格人称接尾辞となる。

- (2)a. yaʕfi: l-mifta:h *l-marʕt-u:*
 与えるIMPF.3SG.M DEF-鍵 DAT-女-GEN.3SG.M
 「彼は妻(文字通りには「彼の女」)に鍵を与える」
- b. yaʕfi:-h *l-marʕt-u:*
 与えるIMPF.3SG.M-ACC.3SG.M DAT-女-GEN.3SG.M
 「彼は妻にそれを与える」
- c. yaʕfi:-*ha:* l-mifta:h
 与えるIMPF.3SG.M-ACC.3SG.F DEF-鍵
 「彼は彼女に鍵を与える」
- d. yaʕfi:-hu:-*lha:*
 与えるIMPF.3SG.M-ACC.3SG.M-DAT.3SG.F
 「彼は彼女にそれを与える」

これに対し、madd 《～を～に渡す》、xalla: 《～を～に残す》、warra: 《～を～に見せる》などの授与動詞に似た動詞では、(3a, b)のように与格名詞句は代名詞化されても与格人称接尾辞のままであり、(3c)のように対格にすると非文となる。

- (3)a. ymidd l-mifta:h *l-marʕt-u:*
 渡すIMPF.3SG.M DEF-鍵 DAT-女-GEN.3SG.M
 「彼は妻に鍵を渡す」
- b. ymidd-*ilha:* l-mifta:h
 渡すIMPF.3SG.M-DAT.3SG.F DEF-鍵
 「彼は彼女に鍵を渡す」
- c. *ymidd-*ha:* l-mifta:h
 渡すIMPF.3SG.M-ACC.3SG.F DEF-鍵

3つ目の受益の与格は、物の移動先ではなく、動詞の表す行為そのもの、あるいはその結果の受け手を表す。「～のために」という訳を与えることができる。構文としては、授与動詞に似た動詞の与格と変わらない。

- (4)a. halli:t il-ba:b *l-xa:di:za*
 開けるPERF.1SG DEF-扉 DAT-(人名)
 「私はハディージャのために扉を開けた」

- b. halli:t-*ilha:* il-ba:b
 開けるPERF.1SG-DAT.3SG.F DEF-扉
 「私は彼女のために扉を開けた」

3. 情報的に余剰な与格の意味

「情報的に余剰な与格」は常に与格人称接尾辞として現れる。この与格には、2種類のものが認められる。1つは、与格人称接尾辞が、他動詞文では目的語、自動詞文では主語と所有関係にある場合である。この場合、与格はその文の述べる事態の経験者を表し、文全体としては、事態が経験者にとってある受け取り方をされたことを表す。この与格を本発表では事態受容の与格と呼ぶことにする。なお、本発表ではこの与格を便宜的に「～にとって」と訳し、() 内に示した。

もう1つは、与格人称接尾辞が聞き手を指す場合である。これはしばしば心性与格と呼ばれる与格に該当するが、本発表では事態提示の与格と呼ぶことにする。

3.1. 事態受容の与格

まず、事態受容の与格についてみる。

- (5)a. hi:ya sarqit-*lu:* flu:s-*u:*
 彼女 盗むPERF.3SG.F-DAT.3SG.M お金-GEN.3SG.M
 「彼女は(彼にとって)彼のお金を盗んだ」

- b. baʕdma: ma:t-*li:* qatʕu:s-*i:* kraht il-hayawa:na:t il-kull
 ~の後 死ぬPERF.3SG.M-DAT.1SG 猫-GEN.1SG 嫌うPERF.1SG DEF-動物PL DEF-全部
 「私の猫が(私にとって)死んだのち、私は動物すべてがきらいになった」

他動詞文である(5a)の「お金」と「彼」、自動詞文である(5b)の「猫」と「私」との関係は「お金」と「猫」に付された属格人称接尾辞によって示され、その意味では、動詞に付された与格人称接尾辞は情報的に余剰な要素であり、ともに「情報的に余剰な与格」だといえる。

いずれの例においても、この「情報的に余剰な与格」がなくても非文とならないが、現れた場合には、この与格は、文の述べる事態が与格の表す経験者によって、ある受け取り方をされたことを表す。(5a)においては事態は「彼」にとって被害であったことが表され、(5b)では愛猫の死とそれが「私」の人生に与えた影響が述べられる。

こうした事態受容に関する表現性は、これらの与格の情動的余剰性に関連づけて解釈することができる。すなわち、この「言う必要のないことをあえて言う」という余剰性により、述べられる事態と与格で表される経験者との関係が際立たされる。そして、この際立たせにより、事態の受容のあり方に関して聞き手はある解釈をすることとなる。この(5a, b)のような例においては、その事態受容は「被害」と解釈されるのが、もっとも自然である。

ただし、この事態受容の与格が表すのは被害という否定的な受容だけでない。(6)では、「彼」にとっての「心地よさ」という肯定的な受容が表されている。

- (6) w-tumfut-*lu:* fi:-lhi:t-*u:*
 そして-梳かすIMPF.3SG.F-DAT.3SG.M 進行アスペクト表示-あごヒゲ-GEN.3SG.M
 「そして、彼女(ガール[怪物]の娘)は(彼(父親)にとって)彼のあごヒゲを手で梳かしている」[I-38]

事態受容の与格においては、与格とそれが関係する名詞句との所有関係は、属格人称接尾辞によって明示されている必要はなく、文脈上明白であればよい。

- (7) baʕdma: ma:t-**ilha:** ir^ʕ-r^ʕa:zil / r^ʕa:zil-**ha:** walla:t
 ~の後 死ぬPERF.3SG.M-DAT.3SG.F DEF-男 / 男-GEN.3SG.F ~になるPERF.3SG.F

hzi:na:
 悲しいSG.F

「夫（文字通りには「その男」「彼女の男」）が（彼女にとって）死んだのち、彼女は悲しくなった」

- (8) m^ʕa:hi: **f-ʕibka** wahlit-**lu:** fi:-**hazra** w-tiq^ʕʕit
 でしょ DEF-網 引っかかるPERF.3SG.F-DAT.3SG.M ~に-石 そして-破れるPERF.3SG.F

「その網が（漁師である彼にとって）石に引っかかって、破れたでしょ」 [II-287]

(7) では、r^ʕa:zil《男》が彼女の夫であることは定冠詞によって示されている。(8) はある漁師について語る場面から引用した例であり、文脈上、定冠詞で限定された網がその漁師のものであるのは明白である。

3.2. 事態提示の与格

この事態提示の与格は、2人称単数の与格人称接尾辞のみが現れ、「話し手が聞き手にとって意外であるとみなしている事態の提示」を表す（熊切 (to appear)）。

- (9) si-l-hat^ʕʕa:b walla:-**lik** fu:la:n il-fu:la:ni: min-aʕya:n l-aʕya:n
 氏-DEF-木こり ~になる-DAT.2SG 某 DEF-某 ~中の-大物PL DEF-大物PL

「なんと木こり殿は、大物中の大物のだれそれと（名が知られるように）なったのです」 [II-077]

(9) は、ラジオ番組における物語の語りの記録に基づき、ここに現れる2人称単数与格人称接尾辞はラジオの聞き手を漠然と指している。当然のことながら、語りにおいては聞き手の存在はその初めから意識されているはずであり、ここであえて与格によって聞き手に言及するのは「情報的に余剰」だといえる。しかしながら、この「あえて言う」という情報的余剰性が、この事態が聞き手にとって特別な意味を持つことを示し、それが事態提示の意外性となっていると考えられる。

4. 「情報的に余剰な与格」の特徴

ここでは、「情報的に余剰な与格」の3つの特徴が情報的余剰性によって解釈できることを示し、さらにチュニス方言の与格全体の中でこの「情報的に余剰な与格」を位置づける。

4.1. 与格名詞句の制限

通常の与格は、(2)～(4)のように与格名詞句と与格人称接尾辞どちらでも現れうるが、「情報的に余剰な与格」には与格名詞句は現れえない。

- (10) *hi:ya sarqit flu:s-u: l-r^ʕa:zil-**ha:**
 彼女 盗むPERF.3SG.F お金-GEN.3SG.M DAT-男-GEN.3SG.F

「彼女は夫（文字通りには「彼女の男」）にとって彼のお金を盗んだ」

(10) は (5a) に対応する例であるが、与格名詞句の場合は事態受容の与格と解釈することはできず非文とな

る。ただし、受益の与格として「彼女は自分の夫のために（別の）男のお金を盗んだ」と解釈することは可能である。

こうした制限は、情動的余剰性に結びつけて解釈することができる。すなわち、余剰な情報とは、当然ながら既知の情報（もしくは文脈的に共有されている情報）であり、したがって、先行詞を持つ代名詞しかあらわれえないのである。

4.2. 文にかかる性質

「情動的に余剰な与格」は、文全体の表す事態の受容・提示について意味を与える。文全体に関与するこうした性質も、情動的余剰性に関連づけて理解することができる。すなわち、ある与格が情動的に余剰であるかどうかは、文中の他の要素（主語もしくは目的語）がその与格の表す人称に関連づけられるか否かによって決まるため、その意味は文全体に関与するのである。

4.3. 文脈の重要性

調査協力者によると「情動的に余剰な与格」は、適当な文脈がないと不自然に感じられるという。

例えば (5b) の事態受容の与格は「動物嫌いになった」というような文脈がないと不自然になるという。これは、情動的余剰性によってある特定の事態受容が強調されるとき、こうした強調がなされる以上は、なんらかの帰結（「動物嫌いになった」）への言及がないと不自然になるからであろう。同様に (7) においても事態受容の与格は「彼女は悲しくなった」という帰結とともに現れている。

また、(6) の例は、単に「心地よさ」という事態受容を表しているだけでない。物語では、グールの娘が、自分の父親のあごヒゲを梳いていい気分させ、その結果、重要な秘密を聞き出すのである。

4.4. 「情動的に余剰な与格」の位置づけ

「情動的に余剰な与格」は、与格の先行研究においては「動詞の選択する項ではない与格」とされる与格に含まれる。例えば、Camilleri and Sadler (2012) は、Bosse, Bruening and Yamada (2012) と Al-Zahre and Boneh (2010) とに依拠して、「動詞の選択する項ではない与格」を、external possessor datives (EP)、benefactive datives (BEN)、affected experiencer datives (AE)、attitude holder datives (AH)、coreferential datives の5種に分類するが、このうち、本発表の事態受容の与格は EP と AE に、事態提示の与格は AH に対応している。

しかしながら、動詞の選択する項か否かという観点からは、判別し難い与格も存在する。それは (3) の受益の与格である。これは、上の5分類のうちの BEN に対応しており、したがって「動詞の選択する項ではない与格」ということになる。

確かに (3) 「ドアを開ける」という行為の受け手を表すこの受益の与格は、授与動詞の与格ほどは必須ではないといえるが、動詞の受益者を表しているという点では文全体というよりも動詞に結びついており、チュニス方言においてはどちらとも決めがたい。

しかしながら、情報の余剰性という観点からすれば、(3) の与格は余剰な情報を表してはおらず、また、与格人称接尾辞の代わりに与格名詞句も現れうるため、「情動的に余剰な与格」ではない通常の与格とみなすのが適当である。

したがって、情動的に余剰であるか、そうでないかという観点は、本言語の与格の分析においては、動詞の項であるかどうかという基準よりも、合理的な基準を提供すると考えることができよう。

5. まとめ

本発表では、チュニス方言の与格について、情動的な余剰性という観点から、分類と意味記述を行っ

た。これをまとめると、チュニス方言の与格分類は次のようになろう。

(11) チュニス方言の与格の分類

I. 通常の与格（情報的に余剰ではない与格）

- (i) 授与動詞の与格
- (ii) 授与動詞に似た動詞の与格
- (iii) 受益の与格

II. 情報的に余剰な与格

- (i) 事態受容の与格
- (ii) 事態提示の与格

情報的に余剰な与格のうち、事態受容の与格は、文の述べる事態を与格の表す経験者がある受け取り方をしたことを表す。いっぽう、事態提示の与格は「話し手が聞き手にとって意外であるとみなしている事態の提示」を表す。

参考文献

- Al-Zahre, Nisrine and Boneh, Nora. (2010) Coreferential Dative Constructions in Syrian Arabic and Modern Hebrew. *Brill's Annual of Afroasiatic Languages and Linguistics* 2, 248–282.
- Bosse, Solveig, Bruening, Benjamin and Yamada, Masahiro. (2012) Affected Experiencers. *Natural Language & Linguistic Theory* 30/4, 1185–1230.
- Draye, Luk (1996) The German dative. In: *The Dative Volume 1 Descriptive Studies*, ed. Van Belle, William and Willy Van Langendonck, 155-215. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins Publishing Company
- 熊切拓 (to appear) 「アラビア語チュニス方言における2人称単数の心性与格用法の意味」 『日本エドワード・サピア協会研究年報』 34. 日本エドワード・サピア協会.
- Leclère, Christian (1976) Datifs syntaxiques et datifs éthiques. In: *Méthodes en grammaire française*, ed. J.-C. Chevalier and M. Gross, 73-96. Paris: Klincksieck.
- Maris Camilleri and Louisa Sadler (2012) On the Analysis of Non-selected Datives in Maltese. In: *Proceedings of the LFG12 Conference*, ed. Miriam Butt and Tracy Holloway King. University of Essex. CSLI Publications. <http://csli-publications.stanford.edu/>.
- Shibatani, Masayoshi. (1994) An Integrational Approach to Possessor Raising, Ethical Datives, and Adversative Passives. *Proceedings of the Annual Meeting of the Berkeley Linguistics Society* 20: 461-486. Berkeley: Berkeley Linguistics Society.
- Singer, H-R. (1984) *Grammatik der Arabischen Mundart der Medina von Tunis*. Berlin/New York: Walter de Gruyter.